

## 事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

## 【事務事業の基本的事項】

事務事業名	放課後児童対策事業費			
担当課係名	生涯学習課	生涯学習係	作成者	高橋由紀
総合計画での位置づけ	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち		総合計画のページ 51
	基本計画	子育て支援と保育体制の充実		
	主要施策	職業生活と家庭生活との両立の促進		
予算費目	一般会計	10款 教育費	5項 社会教育費	1目 社会教育総務費
事業期間	平成 19 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	秋田県放課後子どもプラン推進事業実施要項（放課後児童健全育成事業実施要項）・仙北市放課後児童対策事業実施要項）			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助			

## 【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	昼間労働等の都合で家庭に保護者のいない小学校低学年児童。 (おおむね小学校1年生から3年生)
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	放課後の児童の健全育成の向上を図る。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	どんぐりなかよしクラブ、白樺児童会、ポプラ学園、マロンクラブの4つのクラブを開設して、放課後に児童を預かり、適切な遊びや生活の場を与える。

## 【事務事業の推移】

(単位：千円)

項目		単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	登録児童数	人	317	278	
	成果指標					
投下コスト	項目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	20年度決算額
	事業費(人件費を除く)(A)			8,738	11,801	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金		2,415	2,367	
		地方債				
		その他				
	一般財源		6,323	9,434		
	人件費(B)			7,853	8,071	
		職員数		1.0	1.0	
		職員平均人件費		7,853	8,071	
(A) + (B) 投下コスト			16,591	19,872		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			52,338	71,482	
	市民1人当たりのコスト(円)			520	633	

【事務事業の今までの成果】

放課後の安全・安心な居場所を提供し、児童を預かり、仕事と子育ての両立支援の一助となっている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	仙北市総合計画の主要施策にあがっている。 補助基準が平成22年度から年間開設日数が250日以上となっている。 県内事業実施市町村の半数以上が福祉関係課で行っている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	開設日時の延長及び緊急時の一時保育(預かり)等の声がある。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B	A 現状のまま継続(実施)	仕事と子育ての支援策の一助として、また厚生労働省補助基準を見ながら継続とする。
	B 見直しの上で継続(実施)	
	C 大幅な見直しの上で継続(実施)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

総合計画の主要施策“職業生活と家庭生活との両立の推進”のとおり担当課を統一して継続するべきである。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B	児童クラブ利用料の導入、運営方法の検討など進め、事業推進に努めていただきたい。

一次評価診断図

